

2019 鈴鹿シリーズがいよいよ開幕！ 廣岡選手がポールからの独走で2連勝を飾る



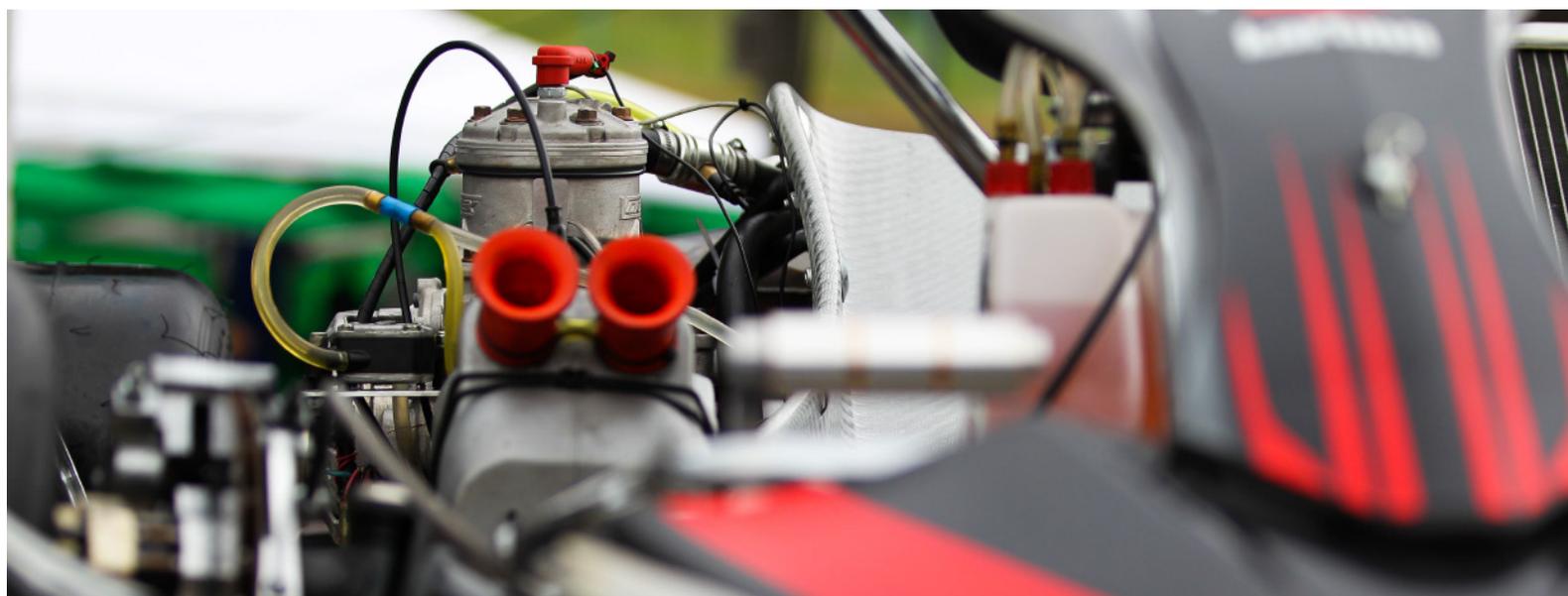
■2018年10月14日 ■鈴鹿サーキット国際南コース(三重県) ■くもり→晴れ(ドライ) ■参加台数：第1戦 11台 / 第2戦 11台

2019 ROK SHIFTER CUP の鈴鹿シリーズが2018年10月14日、三重県・鈴鹿サーキット国際南コースで開幕を迎えた。

2019 ROK SHIFTER CUP は2018年9月1日から年をまたぎ、2019年8月31日までの期間で行なわれるシリーズ戦。ポイントランキングは鈴鹿シリーズとAPGシリーズの合計で決まり、その上位2名が、2019年10月開催予定の世界大会『ROK INTERNATIONAL FINAL』に招待される“日本代表ドライバー”に選出される。

レースは2018シリーズと同様に1大会2レース制で、第1レースの結果が第2レースのスターティンググリッドとなる。スタンディングスタートなどのレース形式も2018シリーズから変わっていない。

大会前夜から降り続いた小雨は朝方に止み、第1戦のスターティンググリッドを決めるタイムトライアルは、コースがほとんど乾いた状態で行なわれた。ここで47秒857のトップタイムをマークしたのは廣岡陸勢選手（トレンタクトロ）。0.238秒差の2番手には東拓志選手（NEXT-ONE Racing）が続いた。3・4番手は下野璃央選手（ぴいたあぱん）と大草りく選手（MOMOX）だ。



Round 1

(10 LAPS)



10周の第1戦がスタートすると、1コーナー進入で東選手が廣岡選手に並びかける寸前までに迫るが、廣岡選手はこの局面をしのいでトップのままレースを開始。すると、やはり好スタートを切った下野璃央選手が東選手をパスし、オープニングラップで2番手に上がった。

廣岡選手は1周で2番手以下を0.5秒ほど引き離すと、その勢いそのまま独走を開始。タイヤをケアしながらも3周でアドバンテージを約1秒へと拡大した。快足を飛ばす廣岡選手は、リードが1.5秒ほどに広がったところで安全圏内に到達したと判断し、ややペースを抑えて残り周回数を危なげなくクリア。2018シリーズ第9戦以来の自身2勝目を飾るとともに、第2戦のポールを獲得した。

その後方では、下野璃央選手と東選手がテール・トゥ・ノーズでバトルを展開。下野璃央選手は背後からのプレッシャーに耐えながらポジションを守り続けていく。対する東選手はコーナー立ち上がりやや苦しい状況。次の第2戦にタイヤを温存することも考慮して、限界までのアタックを抑えながらの走行だった。結局、この2台は順位を替えることなくフィニッシュ。下野璃央選手は過去の最上位だった3位を上回る2位を獲得、東選手は3位でこのレースを終えた。

4位はスタートでひとつ順位を上げた金田翔選手 (TAKAGI PLANNING)。5位の大草選手に続き、下野麻衣選手 (ぴいたあばん) が2ポジションアップの6位でチェッカーをくぐった。



WINNER : 廣岡 陸勢 選手

スタートでトップをキープできたので、レース前半は後ろとの距離を見ながらタイヤをあまり使わない程度に攻めて、リードが広がった後はタイヤを温存することに徹して走りました。セッティングも良い仕上がりになっているので、第2戦も今回と同じようにスタートを決めて逃げ切れたら一番いいですね。第1戦でセカンドグリッドだった東選手には以前にもスタートで抜かれているけれど、第2戦は3番グリッドに下がったので、次のスタートは少し気が楽になりました。あとは自分のタイヤの使い方と体力次第でしょうね。



2nd PLACE : 下野 璃央 選手

もっと速く走りたかったけれど、あれが精一杯でした。真後ろに東選手がいることは分かっていた、プレッシャーを感じていました。自己最上位の2位にはなれたけれど、1位がよかったです。ただ、いつも失敗していたスタートをうまく決められたのは、成長できた点かなと思います。第2戦では優勝できるように、気持ちを集中して頑張ります。



3rd PLACE : 東 拓志 選手

第1戦は、次にタイヤをもたせることを考えて、アクセルを踏みすぎないように走っていました。昨日と気温が変わったことでセッティングがやや合わなくなって、立ち上がりで少し苦しかったので、第2戦には修正して臨みます。廣岡君とタイムは同じくらいだと思うので、第2戦では早めに前に出るか、少なくとも着いていって優勝を狙いたいです。

Round 2

(16 LAPS)



16周の第2戦。苦手だったスタンディングスタートを第1戦で克服した下野璃央選手は、それを上回る抜群のスタートダッシュを決め、廣岡選手をパスして1周目のラップリーダーとなった。

しかし、この日の廣岡選手の好調ぶりはライバルたちを圧倒していた。2周目に下野璃央選手を抜き返してトップに返り咲いた廣岡選手は、3周目までに他の選手たちを1秒以上も後方へと突き放す。なおマシンにムチを入れる廣岡選手のアドバンテージは、6周目に3秒、10周目に4秒とどんどん広がっていった。

レースが終盤戦に入りリードが5秒を超えたところで、廣岡選手はようやく手綱を緩めてクルージングへ。第1戦に続く無敵の独走劇で、廣岡選手が2連勝を果たした。

一方、下野璃央選手はペースが思わしくなく、4周目に金田選手の逆転を許すと、徐々に順位を下げていった。5周目、金田選手の背後に迫ってきたのが東選手だ。得意のスタートを珍しくミスした東選手は、5番手に後退したところから挽回を続けてきたのだ。

レースが折り返し点を過ぎると、東選手は金田選手を射程距離に捉えた。だが、金田選手は度重なる東選手のアタックに耐えて2番手を譲らない。最終ラップ、東選手は3コーナーでようやく金田選手の前に出て2位を獲得。金田選手は東選手に0.5秒弱及ばなかったが、それでも自己最上位の3位入賞だ。

大草選手はグリッドからひとつ順位を上げて4位フィニッシュ。下野璃央選手が5位でこのレースを終え、6位にはレース中盤に4番手浮上の好走を見せた西野武志選手 (PLAYFUL LYNX) が入った。



WINNER : 廣岡 陸勢 選手

いつも第1レースまでは調子が良くても第2レースがうまくいかなかったので、やっと勝てたという気持ちです。今回はタイヤマネジメントをうまくできたことが一番大きかったと思います。スタートは第1戦ほどうまくいかず、2番手に下がってちょっと焦ったけれど、気持ちを切り替えてチャンスを待つて抜き返すことができました。そこからは全力でリードを広げて、独走になってからは抑えて走りました。トップを走っている最中、単独走行にもかかわらず緊張してしまって、ゴールの瞬間はほっとしました



2nd PLACE : 東 拓志 選手

スタートを若干ミスった動揺がしばらく続いて自分の走りができず、3番手に上がって金田選手に追い付いてからも、抜くまでにけっこう時間がかかってしまいました。廣岡君と直接戦うこともできず、不完全燃焼のレースに終わりました。鈴鹿選手権のチャンピオンは取れたので、次回はチャンピオンらしい走りで2018年のレースを締めくりたいですね。



3rd PLACE : 金田 翔 選手

自己最上位の3位にはなれたのですが、優勝を目指していたので、悔しい気持ちが残るレースでした。2番手を走っている時は気分が高揚したけれど、ミスが多くて東選手に抜かれてしまいました。体に力が入っていたことがミスの多かった原因だと思います。次の大会は今日のミス全部直して臨みたいですね。そうすれば勝てるはずだと思っています。